

## 一般有料道路事業

日光宇都宮道路 [土沢インターチェンジ] [篠井インターチェンジ]  
(平成23年3月完成) (令和元年6月完成)

### 1. 事業概要

日光宇都宮道路は、宇都宮市の宇都宮ICから、日光市の清滝ICへ至る延長30.7kmの栃木県道路公社が所管する一般有料道路（自動車専用道路）であり、東北自動車道と直結し、宇都宮市や首都圏等と国際観光都市日光を結ぶメインアクセス道路として、また、沿線地域の生活利便性の向上を図る道路として重要な役割を担っている。

本道路は、日本道路公団（当時）によって建設され、昭和51年12月に宇都宮IC～日光IC間が、昭和56年10月に日光IC～清滝IC間が開通した。平成17年6月に栃木県道路公社が管理を引き継ぎ、高速道路並みの高いサービス水準の維持とともに、利便性向上のために通行料金の引き下げやETCの導入を実施してきた。

本事業は、更なる利便性の向上や地域のニーズへの対応のため、土沢IC及び篠井ICの新設を計画し、土沢ICは平成23年3月に供用を開始し、篠井ICは令和元年6月に供用を開始した。

### 位置図



土沢インターチェンジ【平成23年3月撮影】

篠井インターチェンジ【令和元年6月撮影】



- ◆ 事業名：一般有料道路事業
- ◆ 事業主体：栃木県道路公社
- ◆ 事業箇所：日光宇都宮道路  
(日光市土沢、宇都宮市石那田町)
- ◆ 総事業費：約33.5億円  
土沢IC：22.5億円      篠井IC：11億円
- ◆ 事業期間：平成18年度～令和元年度

## 2. 事業の目的

更なる利便性の向上や地域ニーズの対応の観点から、土沢IC及び篠井ICを新設を行い、以下の目的のため整備を行いました。

- ① 観光や産業活性化による地域振興の支援
- ② 救急救命活動の支援
- ③ 防災・減災ネットワークの強化
- ④ 一般国道119号の交通の円滑化

## 3. 事業の整備効果等

〈観光や産業活性化による地域振興の支援〉

- 本県有数の観光地である鬼怒川・川治温泉へ今市市街地を経由しない新たなルートを形成
- 救急医療機関までの搬送時間短縮や物流効率化等を支援（日光産業団地から土沢ICまで約2.5km）

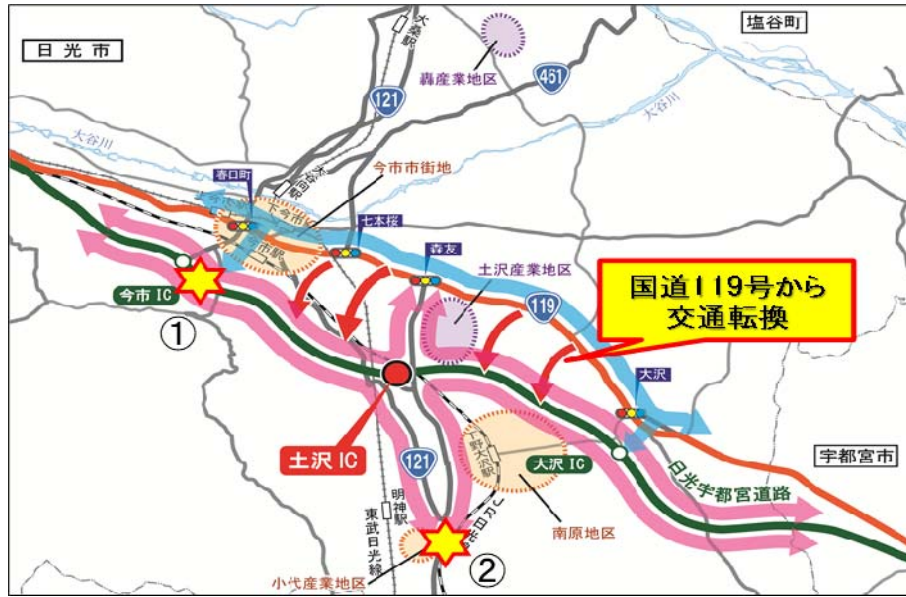






〈一般国道119号の交通の円滑化〉

- 土沢IC設置により、国道119号からの交通転換が図られ、日光宇都宮道路 土沢～今市間や国道121号現道土沢IC周辺の交通量が増加



①日光宇都宮道路 土沢～今市間 H22交通量調査(道路交通センサ)→H27交通量調査(道路交通センサ)

日光宇都宮道路 日光市平ヶ崎(琴平架道橋)	→	日光宇都宮道路 日光市平ヶ崎(琴平架道橋)
整備前 9,327台/12h		整備後 14,301台/12h

②土沢インターチェンジ周辺 H22交通量調査(道路交通センサ)→H27交通量調査(道路交通センサ)

国道121号 日光市板橋1573-1	→	国道121号 日光市板橋1573-1
整備前 7,955台/12h		整備後 9,116台/12h

- 篠井IC設置により、国道119号からの交通転換を図るとともに、徳次郎交差点渋滞の軽減



◎ 国道119号から交通転換により、日光杉並街道の環境保全を担っていると考えられる。

#### 4. 事業を巡る社会情勢の変化

- 土沢IC周辺の土沢産業地区（日光産業団地）に獨協医大日光医療センターが令和5年1月に開院したことから、日光宇都宮道路は更に沿線地域の生活利便性を担う道路として重要な役割を果たしていく。

#### 5. まとめ

日光宇都宮道路の土沢IC及び篠井ICの整備が、周辺の開発状況、観光客の動向及び交通量の推移等の結果から、①観光や産業活性化による地域振興の支援、②救急救命活動の支援、③防災・減災ネットワークの強化、④一般国道119号の交通の円滑化に大きく寄与していることが確認されました。

今後も日光宇都宮道路については、より安全で快適な通行が確保できるよう、適切な管理運営に努めていきます。

栃木県道路公社 施設管理部

TEL : 0288-32-2326 FAX : 0288-32-2265

HP : <https://www.totidoko.or.jp>

E-mail : totidoko@plum.ocn.ne.jp

